

市民と語る会を 開催しました！

本年度で3回目となる市民と語る会を実施しました。

市民と語る会は、市議会基本条例に基づき実施するもので、市民の皆さんの多様なご意見・ご要望等を把握し、議案審査等に活用し、政策へ反映させることを目的としています。

議員は、議長も含めた20名が5名ずつ4つの班に分かれ、分担して各会場に伺いました。

昨年度までと同様に取り組んだ自治振興区単位で、自治振興区の役員・事務局の方を中心に協力を頂く中、11月2日から17日の期間において全21会場を実施し、計318名の方にご参加いただきました。

また、新たに本年度から「市民と語る会 井戸端スタイル」を創設しました。

この取り組みは、さらなる広聴活動強化を目的に、市民の方により気軽にお申込みいただけるよう企画したもので、5名以上お集まりいただき、開催希望日の2カ月前の月末までにお申込みいただければ、議員が希望の場所にお伺いさせていただくものです。令和5年8月から募集を開始し、全9件のお申込みをいただきました。内、4件は10月中に実施し、計37名の方にご参加いただきました。

※紙面編集時期の都合により、井戸端スタイルの令和6年1月（4件）、2月（1件）実施（予定含む）分については、以降に掲載する内容に反映できておりません。最終的な報告書及びアンケート結果は令和6年3月末を目途に「庄原市議会ホームページ」に掲載を予定しています。

※令和5年度の井戸端スタイルの申込は12月までで終了しています。

●自治振興区単位の実施状況

NO	地域	地区	開催日	会場	テーマ	参加者数
1	庄原	庄原	11月8日(水)	庄原自治振興センター	・地域の教育環境	43名
2	庄原	高	11月8日(水)	高自治振興センター	・芸備線	7名
3	庄原	本村	11月15日(水)	本村自治振興センター	・【共通テーマ】	15名
4	庄原	峰田	11月7日(火)	峰田自治振興センター	・人口減少 ・有害鳥獣対策	20名
5	庄原	敷信	11月2日(木)	敷信自治振興センター	・【共通テーマ】	17名
6	庄原	東	11月6日(月)	東自治振興センター	・有害鳥獣対策、市道管理等	14名
7	庄原	山内	11月13日(月)	山内自治振興センター	・【共通テーマ】	8名
8	庄原	北	11月8日(水)	北自治振興センター	・フリーテーマ	6名
9	西城	西城	11月14日(火)	西城自治振興センター	・西城紫水高校 ・西城市民病院 ・芸備線	29名
10	西城	八鉢	11月13日(月)	八鉢自治振興センター	・【共通テーマ】	6名
11	東城	小奴可	11月10日(金)	小奴可自治振興センター	・【共通テーマ】	11名
12	東城	八幡	11月2日(木)	八幡自治振興センター	・地域交通	8名
13	東城	田森	11月15日(水)	田森自治振興センター	・有害鳥獣対策 ・人口減少	22名
14	東城	東城	11月9日(木)	東城自治振興センター	・地域交通 ・東城市街地公園整備	13名
15	東城	帝釈	11月7日(火)	帝釈自治振興センター	・農林業	21名
16	東城	久代	11月14日(火)	久代自治振興センター	・有害鳥獣対策 ・人口減少、高齢化	10名
17	東城	新坂	11月17日(金)	新坂自治振興センター	・【共通テーマ】	14名
18	口和	口和	11月13日(月)	口和自治振興センター	・【共通テーマ】	9名
19	高野	高野	11月9日(木)	下高自治振興センター	・地域交通 ・空き家対策	15名
20	比和	比和	11月10日(金)	比和自治振興センター	・【共通テーマ】	3名
21	総領	総領	11月6日(月)	総領自治振興センター	・人口減少	27名
合 計						318名

※【共通テーマ】①議員定数及び議員報酬に係る市民アンケート結果と議会の役割について ②人口減少社会における自治振興区活動の課題について

●井戸端スタイルの実施状況(10月実施分)

NO	申込者名	開催日	会場	テーマ	参加者数
1	宮内自治会	10月11日(水)	宮内集会所	・これからの宮内町、私たちにできることは？	5名
2	庄原の人口問題を考える 民間会議 ひと部会	10月13日(金)	庄原市交通交流施設 地域交流室	・庄原の人口減少の実態と成果の 取り組みについて	5名
3	東三区教育推進協議会	10月24日(火)	美湯ハイツ南集会所	・東三区地区の教育環境の充実	17名
4	国際ソロプチミスト庄原	10月25日(水)	庄原市民会館	・人口減少対策について ・若者が子育てしやすい環境について ・教育現場及び医療現場の状況について	10名
合 計					37名

※ほか5件（1月実施4件、2月実施1件）の申込あり

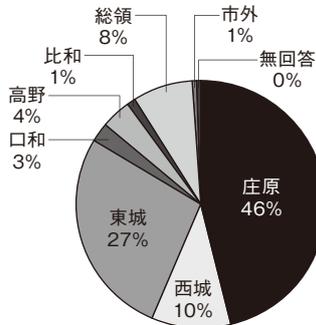
会場で配布・回収した市民と語る会アンケートより

自治振興区単位21会場、井戸端スタイル(10月実施分) 4会場における回答総数、回答率

回答総数:328名 回答率:92% (小数点以下四捨五入)

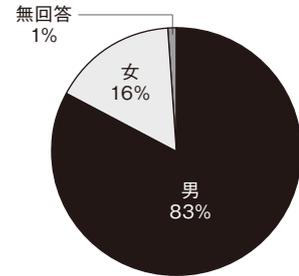
■ 住まい

地域	回答数
庄原	152
西城	33
東城	90
口和	8
高野	13
比和	3
総領	26
市外	2
無回答	1
合計	328



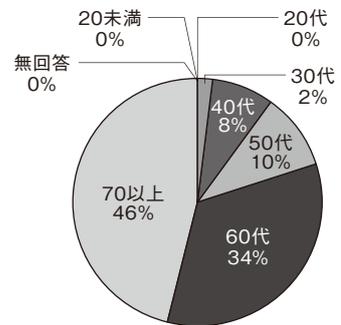
■ 性別

性別	回答数
男	273
女	52
無回答	3
合計	328



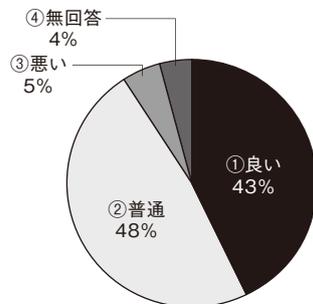
■ 年代

年代	回答数
20未満	0
20代	1
30代	7
40代	25
50代	32
60代	111
70以上	152
無回答	0
合計	328



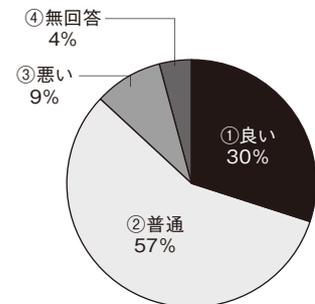
■ 意見の出しやすさ

回答	回答数
①良い	140
②普通	158
③悪い	16
④無回答	14
合計	328



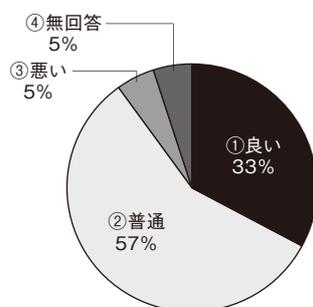
■ 答弁のわかりやすさ

回答	回答数
①良い	98
②普通	186
③悪い	31
④無回答	13
合計	328



■ 全体の感想

回答	回答数
①良い	109
②普通	188
③悪い	16
④無回答	15
合計	328



市民と語る会の開催、
ならびにアンケートにご協力いただき
ありがとうございました。

市民と語る会(自治振興区単位)についてのご意見

- 双方向の議論でよかった。聞く耳を持った議員の方々で大変よかった。
- 多くの参加者が発言できるようなテーマで設定も検討してほしい。
- 前年度に出た課題、意見について状況説明をしてほしい。
- 参加者が少ないので開催方法を一考してもよいのでは。

市民と語る会(井戸端スタイル)についてのご意見

- 議会を身近に感じられてよかった。他地域でも、開催の意味があると思う。
- 身近に議員と話ができて、とても有意義だった。「井戸端」のネーミングがとてもいい。話しやすい。
- 話しやすい場に、もっとアピールして意見交換の場を増やしていけばもっと親しみやすい市政になっていくと思う。

市議会についてのご意見

- 地域に向いて地元の声をしっかりと聞いてほしい。
- 今回出された問題点等が良い方向に向かうようご助力を願う!
- 市民は市長と直接話をするのがない。議員の皆様にはぜひ市民の声を届けてほしい。
- 議会も市民を守るための議論を一番に考えて進めてもらいたい。
- 議員の皆さんが声をしっかりと届けたいという姿勢が見えたことは良かった。その声を実際に一つでも実現可能となるよう動いていただきたい。

各会場で寄せられた意見から一部を抜粋してお知らせします。

共通テーマについての意見

①議員定数及び議員報酬に係る市民アンケート結果と議会の役割について

意見 議員定数・報酬削減については、常任委員会の数を減らして対応してはどうか。自治振興区もスリム化している。議会も身を切る考えも必要ではないか。ただし、定数割れが生じることを危惧する面もあるがどうか。

答1 議員報酬の件では、他の類似団体の人口と財政を基準にせよとの、アンケートの意見が多くある。正解が無いので、議員間の中でも様々な意見が出ている。平成25年からの10年間で、7,000人の人口減少は無視できないと考える。定数を削減した場合の議会運営上の手法はある。議員は2つ以上の委員会に所属することが認められている。

答2 委員会の活動は幅広いテーマがある。20人は確保しておきたいとの思いがある。

意見 議会が機能すれば市はしつかりまわると思う。子育てをするには、現在の議員報酬は少ないと感じる。また、しつかりと活動してもらうなら、議員数は20

人ではないとも思うがどうか。

答 議員は選挙だけでなく、冠婚葬祭、イベント、付き合いや活動に経費が高む。若い方が議員に立候補しようと思える状況づくりも検討する必要があると考える。庄原市議会では、議員定数及び議員報酬調査特別委員会を立ち上げ、令和5年は議員に対してのアンケートを行い、今年は市民アンケートを実施した。このアンケートをもとに、人口、面積、財政状況、近隣自治体や類似自治体との比較など様々な角度から議論を重ねている。結果は今の段階では決まっていないが、まとまり次第市民の皆様に公表することとなっている。

②人口減少社会における自治振興区活動の課題について

意見 自治振興区事務局の処遇改善をして欲しい。なり手がいない。人口減少で集落維持も困難な状況にあり、喫緊の課題であるので、自治振興区制度のあり方も含め早急に何とかして欲しい。

答 人口が減少する中でも、イベントや祭り、役員会など集まりや行事が多く、役員のなり手確保に苦慮されている。また、事務局の勤務時間や処遇改善を求める声も届いており、現在、議会で議論しているところである。

意見 今後の人口動態を見ると90代が多く、60代が少なくなり、70代〜80代

が地域を支える時代が来る。今後は自治振興区をどのような形にしていくなか、考えていかなければならないがどうか。

答 自治振興区のあり方については企画建設常任委員会で調査している。組織再編を考えていかなければいけない。これからのような形が一番良いのか探っている段階である。光ファイバーを活用して自治振興区の業務の簡素化し、人手不足を補う事も必要だと考える。

その他のテーマについて

■芸備線について

意見 現在のダイヤは非常に不便であり、生活交通としての利用は難しい。再構築協議会では、もう一度便利な芸備線とはどのような芸備線なのか実験をして、その後の見直しを考える必要があると思う。

答 東城発の4本のうち2本は朝早すぎて乗れない。自分で集計をしてみたが、高校生を中心に多く利用する便もある。高校生などの利用者が多い便を残しながら、一般利用者が利用しやすい便利な便を運行していくことが必要だ。

意見 他国では、鉄道は国防の面からも重要な役割を果たしている。岐阜県

の東海道線は海からの攻撃を受ける可能性があるため、そうならないような工夫がされている。根本的な国を守るという面でJRに言っていかなければならない。

答 国防上の役割を果たす場合も大いにあると思う。さらには島根原発で不測の事態が生じた場合などは避難経路として必要であるし、支援物資の搬送など、今までは違った視点での議論も必要となつてくると思う。

■地域交通について

意見 昨今は高齢者の免許返納や一人暮らしの高齢者が増えている。バス停まで遠いという問題もあるがどうか。

答 Maasを導入して、バス停まで遠いので不便になったという声を聞く。既定路線はバス停でないに乗れないが、乗り合い不定期運行であればどこでも停まってくれる。路線が良いのかデマンド交通が良いのか地域の実情に合わせ、自治振興区から要望を上げてもらうことも良いかもしれない。

意見 白タクは都会よりもむしろ田舎の方が必要であると感じる。高齢者福祉施設の送迎や移送用の車は、昼間に空いていることが多い。その空いている時間を利用して車と運転手を有効活用するという事も考えられる。国もこのことに関して動きを見せている感じがある。

答 高齢者福祉施設以外にも、保育所の送迎用の車も昼間は空いている。Maasを導入し、これらの車を活かして交通空白地での有償事業はできると思う。市に届けていく。

■有害鳥獣対策について

意見 獣害対策の補助金について、一軒の家ではできないので、何軒かのグループでやらなければならぬことや、基準が分かりにくい。申請期間も決まっているので不便と感じる。

答 林業振興課に補助金申請の冊子があるので参考にしてもらいたい。ただし、件数が多ければ案分するので満額出ない可能性もある。申請が多い場合は補正予算で対応することも必要ではないかという意見もあるが、そのあたりは市にも伝えている。

意見 農地の多くがイノシシの被害を受けている。トタンは押し上げて侵入し、電柵もメッシュで高くしなければ対処できない。この状況が続くと農業がやっていけない。行政からの支援の強化を望む。数頭捕獲しただけでは間に合わない。

答 メッシュをしても倒木の影響で毎年修理が必要であるとの情報も聞いており、捕獲に対する1頭あたりの奨励金の増額も必要と考える。国・県の補助金があるが、対象となる対応策の取れない地域があるので、引き続き

き活用しやすい制度となるよう要望を続けていく。

意見 イノシシの処理場について、土日も含め撃つたらすぐに持って行ける状況にして欲しい。また、販売している加工品の消費量の状況はどうか。

答 土日でも対応出来る環境にあるとは聞いている。また、処理場を拡大する計画もあるが、下水処理可能な環境が必要であり、場所を検討されている。

処理場で受け入れたイノシシの肉は、学校給食での使用や、食肉やペットフード、ソーセージへ加工したものを、道の駅たかのやイベントなどで販売している。販売は好調だが、予定数を超えて捕獲されており、新たな商品化のチャレンジも必要と考える。

■教育・子育て支援について

意見 永末小学校では、子どもの人数が増えているが、小学校の施設は老朽化し、想定を超える人数に対応できておらず、放課後児童クラブについては、休所中の永末保育所に対応しているなどの課題がある。市は住民基本台帳による児童数推計で、今後は減少すると説明されたが、現在通う子どもに我慢を強いるのは問題と感じているがどうか。

答 令和4年、永末小学校・放課後児童クラブ等を教育民生常任委員会で

視察し、問題意識をもっている。市内でも永末のように人数が増えている例はなく、対応すべき優先順位は高いと考える。議会として、子ども達の置かれる環境を最優先に取り組みを進める。

意見 地域にある中学校の統廃合は凍結という形になっているが、今後の状況はどうか。小学校の保護者が不安に思っている。統廃合が分かれれば引越そうという人もいるので、今後の展望を教えて欲しい。住民が安心して教育、子育てをする環境を整えるのが大切である。

答 現状は凍結と言ってよいと考えるが、住民が安心して教育、子育てをする環境を整える必要性については、その通りである。教育民生常任委員会では、今後の学校の体制について継続して話している。

意見 高校統廃合について、県教委は定数をたびたび変えている。高校は県の管轄だと理解しているが、市議会の教育民生常任委員会は、生徒が少人数でも取り組む考えがあるのか。

答 教育民生常任委員会では、先日も少人数に対応するための職員配置基準の見直しへの意見書を提出した。子どもが減っても対応できる環境づくりをし、子ども、保護者、地域が選択出来る環境をつくりたいと思っている。

意見 議会で他の自治体に視察に行かれ、子育て政策などを勉強されているが、庄原市でどのように実現していくのが重要であると思う。実際の程度実現できると考えるか。

答 庄原市の子育て施策は、先進地とされる自治体に負けていないが、アピールの仕方に工夫が必要と考える。兵庫県明石市では、他の予算を削り徹底的に子どもに関する予算にあて、一部不満は出ているが子育て世代の移住等成果をあげており、何かに特化した取組みも重要と考える。少子化問題は、本来、国全体で取り組むべき大きな問題だが、視察で学んだことを、一般質問や会派要望などで執行者に届けていく。

多くのご意見をいただきありがとうございます。紙面の都合上、全てを掲載することはできませんが、今後の議会運営や個々の議員活動に反映させてまいります。

今後も市民の皆さんと直接意見交換ができる、身近な議会として、様々な取り組みを行ってまいります。